

## はじめに

国際防災研修センター（DRLC : Disaster Reduction Learning Center、以下「DRLC」と記載する。）は、JICA と兵庫県が 2007 年 4 月に共同設立して以来、神戸東部新都心（HAT 神戸）を中心に兵庫県内の多彩な防災・国際機関と連携し、幅広い協力と支援のもと、日本、特に阪神・淡路大震災を通じた兵庫県や神戸市の経験・教訓と蓄積された知見を活かして、開発途上国の国づくり人づくりを支える JICA の防災分野研修を総合的に調整、支援する様々な活動を展開してきた。

2011 年からは、東日本大震災の経験と教訓も織り込むなど、時点時点で新たな要素を組み入れながら、途上国に対しての防災分野事業を行っている。

今後は、将来的に大規模な被害を伴って発生が予想される、東海・東南海・南海大地震への備えにも焦点をあて、各地の防災関連機関や被災自治体のほか、防災団体・コミュニティなどとの連携を図りつつ、開発途上国における防災分野の人材育成を進めていくこととしている。

国際防災研修センター実行委員会（以下、「実行委員会」と記載する。）は、こうした DRLC の活動を支援し、国際的な防災人材育成に関する調査研究を進める体制整備を行なっている。

本報告書は、国際防災研修センター及び実行委員会の設立から 6 年目となる 2012 年度に実施した具体的な活動内容をまとめたものである。

## 1. 実行委員会が活動支援を行なう国際防災研修センター（DRLC）について

### （1）背景

1995 年に発生した阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）は、近代日本が初めて経験した都市直下型地震であり、兵庫県神戸市を中心に甚大な被害をもたらし、死者約 6,400 人超、被害総額が約 10 兆円に及ぶ未曾有の大災害となった。

しかしながら、国内に留まらず広く世界から多くの支援を受けて、被災地域は急速な復旧を実現し、総力を挙げて復興に努め、この経験と教訓を基に現在も防災・減災に重点を置いた社会作りを積極的に推進している。

この大震災から 10 年目の 2005 年 1 月に神戸市で開催された「国連防災世界会議（兵庫会議）」では、その後の世界の防災戦略の指針となる「兵庫宣言／兵庫行動枠組 2005-2015」が採択された。この中で、世界の災害被害軽減に向けて、途上国の災害対応能力を国際的な協力を通じて緊急に強化する必要性、特に災害の予防、被害軽減、備え、脆弱性を軽減することの重要性が強く謳われている。

また、この会議で日本政府は、開発途上国に対する開発援助にも防災の視点を積極的に取り込み、日本の国際貢献として、ODA（政府開発援助）を通じた途上国の国づくりや制度構築のための自助努力を支援した防災協力を行う「防災協カイニシアティブ」を提唱し、日本の持つ災害対応に係る豊富な知見を国際協力に一層活用していくことを表明した。

## (2) 目的

阪神・淡路大震災の復興シンボルプロジェクトとして神戸市東部の臨海地に整備された新都心「HAT 神戸」には、JICA 関西のほか WHO 神戸センター・国連地域開発センター・人と防災未来センターやアジア防災センターなどの防災関連、国際交流・国際協力機関が数多く集積している。DRLC は、こうした様々な国際機関、防災関連機関と連携して、防災人材育成の視点から、阪神・淡路大震災などの日本の災害経験と知見に基づく防災技術を広く効果的に世界に発信し、開発途上国の防災力向上に貢献することを目指す。

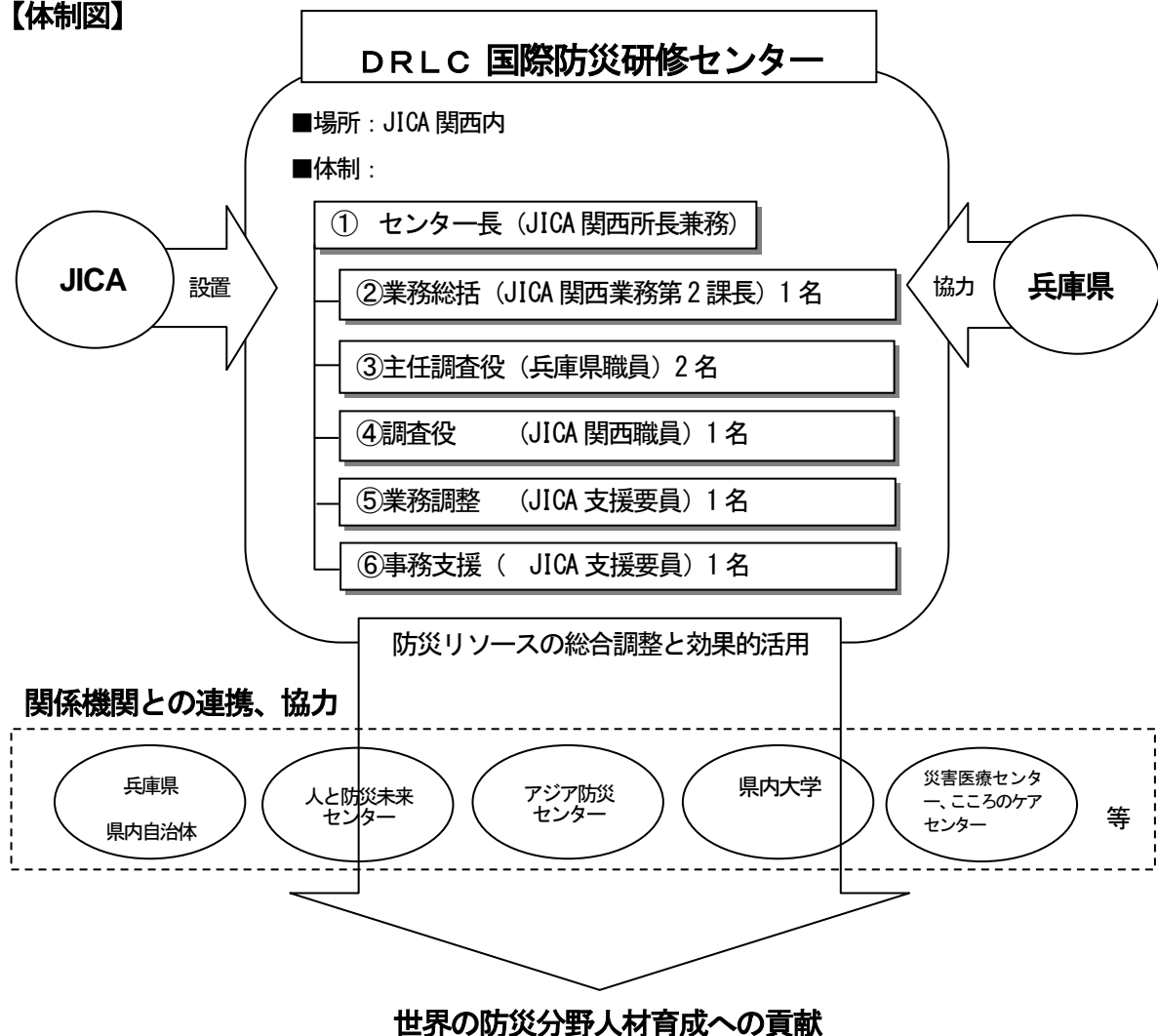
## (3) 活動

DRLC は、日本、特に阪神・淡路大震災を通じた兵庫県や神戸市などの経験と教訓、蓄積された知見を活かし、開発途上国の国づくり人づくりを支える JICA の防災分野研修を総合的に調整、支援する拠点として、次の事業を展開している。

- ① 防災分野研修の総合調整
- ② 防災分野研修の効果的実施
- ③ 防災分野研修における人的ネットワークの構築とその有機的な活用
- ④ 防災分野研修のリソースに係るデータベースの整備
- ⑤ 兵庫県の防災知見の国際防災人材開発への活用

## (4) 体制

### 【体制図】



## 2. 実行委員会の体制について

前項で示した DRLC の活動を支援し、その根幹となる人材育成面において、国際的な防災人材育成に関する調査研究を進める実行委員会の組織体制は次のとおりである。

### (1) 構成団体

独立行政法人国際協力機構（JICA）、JICA 関西国際センター（JICA 関西）、兵庫県

### (2) 委員構成

- ・ 委員長：JICA 関西所長
- ・ 委員：JICA 関西次長、兵庫県企画県民部防災企画局防災企画課長
- ・ 監事：JICA 国内事業部計画担当次長、兵庫県企画県民部防災企画局防災企画課係長  
（・ 事務局長：DRLC 主任調査役）

## 3. 実行委員会の主な活動について（2012 年度）

2012 年度中、実行委員会は「国際的な防災人材育成の効果的実施のための調査研究」として、次の活動を行った。

### (1) JICA 関西における防災分野研修の機構内調整機能の強化

#### ① 防災分野研修の総合的な調整支援

##### ■ 集団・地域別研修の実施

- 集団・地域別研修コース（15 コース）を実施した。（別添 1 参照）



## ■ 国別研修・有償勘定技術支援の実施

➤ 集団・地域別研修（15 コース）以外に、下記の国別研修、有償勘定技術支援を実施した。（集団・地域別研修との再掲あり）

国名	研修名	時期
イラン	消防運用体制	12年11/25-12/15
イラン	テヘラン地震災害 地震防災	12年12/10-12/21
タイ	総合防災	12年11/26-12/7
中国	応急対応能力強化	12年6/24-7/10
中国	教育分野におけるこころのケア	12年7/3-7/14
中国	救急救助技術	12年8/26-9/6
中国	巨大地震災害軽減のための総合戦略	12年9/24-11/16
トルコ	防災教育行政	12年10/30-11/3
トルコ	防災教育プロジェクト マスター教員研修	13年1/14-1/28
ベトナム	防災意識の啓発（B）	12年7/29-8/11
ベトナム	コミュニティ防災	12年12/2-12/8
ベトナム	防災	13年1/20-1/30
ミャンマー	災害に対する救急救助技術向上	13年2/11-2/21
メキシコ	自然災害からの事前復興計画	13年1/6-3/2
モンゴル	寒冷地における地震防災対策	13年1/15-1/29
大洋州	コミュニティ防災能力強化（水文・水理）	12年9/17-9/30
大洋州	コミュニティ防災能力強化（地域防災・コミュニティ）	12年10/8-10/20

また、この他にも、下記の研修等において、DRLC 職員が講義を行った。

日時	研修名	講義内容
12年6/26	JICA 研修「中央アジアコーカサス総合防災行政」	日本における防災行政、DRLC の取り組み
12年9/11	平成24年度 ボランティア・カレッジ	JICA の取り組む防災協力 ～JICA と兵庫県～
12年10/3	ミャンマー災害医療コース「国際災害医療セミナー」	JICA によるサイクロナル ギス支援概要
12年11/29	神戸学院大学「社会貢献論Ⅱ」講座（約50人）	国際防災研修センターの活動 ～JICA と兵庫県から～
13年1/12	JICA 研修「総合防災行政」	日本における防災行政、DRLC の取り組み
13年2/9	神戸大学「2011年タイ大洪水から学ぶ長期湛水被害と事業継続への備え」セミナー	「JICA によるタイ大洪水（2011）と東日本大震災（2011）に対する被災地支援」

## ■ 1.17 連携防災イベントの実施

＞阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを期する1月17日の「ひょうご安全安心の日」の時期を捉え、HAT 神戸の関係機関と連携して「防災」「国際」「アート」をキーワードとした、誰もが参加できる防災関連イベントを12月から1月にかけて実施した。

このうち、1月27日（日）には、子どもたちが、使わなくなったおもちゃの交換やユニークな防災体験を通じて、楽しみながら「震災の知恵や技」を身につけるプログラム「イザ！カエル大キャラバン！2013」を、連携事業のメインイベントとして、JICA 関西と人と防災未来センターを会場に開催した。

このイベントには、JICA 関西が受入れている開発途上国からの研修員が運営スタッフとして参加・体験することにより、防災教育イベントの運営方法などを学び、母国での防災教育に役立てたり、来場者と交流するなど、防災分野での国際協力に対する理解を広める機会となった。

- ・主催：HAT 神戸連携防災イベント「イザ！カエル大キャラバン」実行委員会  
(JICA 関西 DRLC、NPO 法人プラス・アーツ)
- ・共催：人と防災未来センター、兵庫県立美術館、兵庫県国際交流協会
- ・実施期間：2012年12月、2013年1月（メインイベントは1/27）
- ・イベント参加者（来訪者）数：約1,000人


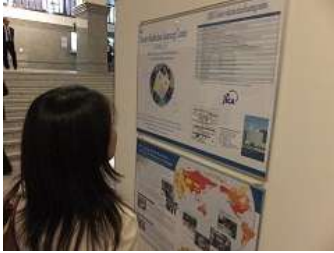


(2) **防災分野研修の効果的、効率的実施を促進**

① **研修受入先等関係機関との連携強化**

■ **関係機関との連携強化**

➤ 防災分野研修のみならず DRLC 事業全般で県内防災関係・国際機関と連携している。また関係機関に対しては、下記の具体的な事業連携・支援を行なった。

内容	時期	支援・連携機関等
世界防災閣僚会議 in 東北サイドイベントへのブース出展 	12年7/3	外務省、内閣府等関連省庁
東日本大震災にかかる第3回専門家会合「大災害からの復興の教訓を将来の防災に生かす」への参画	12年7/3	内閣府、国際復興支援プラットフォーム、アジア防災センター、国連国際防災戦略事務所、国連アジア太平洋経済社会委員会
国際防災・人道支援協議会（DRA）代表者会議への参画	12年8/17	国際防災・人道支援協議会（事務局：人と防災未来センター）
国際減災フォーラム「減災社会への連携」（人と防災未来センター開設10周年記念）への参加 	12年10/11	内閣府、総務省消防庁、外務省、兵庫県、人と防災未来センター、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）、国連人道問題調整事務所（OCHA）、国際協力機構（JICA）関西国際センター、アジア防災センター（ADRC）、国際防災・人道支援協議会（DRA）
国際防災・人道支援協議会（DRA）「国際防災協力等に関する意見交換会」への参画	13年1/17	国際防災・人道支援協議会（事務局：人と防災未来センター）
「東日本大震災にかかる第4回専門家会合」～巨大災害の教訓を2015年以降の国際防災枠組に生かす～への参加	13年1/21	IRP事務局、内閣府、兵庫県、アジア防災センター（ADRC）、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）、世界銀行
「国際復興フォーラム2013」～都市の力強い復興～防災を取り入れた復興・開発計画づくりー東北と世界の経験を2015年以降の国際防災枠組に生かす～への後援及び参加	13年1/22	IRP事務局、内閣府、兵庫県、アジア防災センター（ADRC）、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）、世界銀行

アジア防災会議 2013 年	13 年 1/23	内閣府、国連国際防災戦略事務局 (UNISDR)、アジア防災センター (ADRC)、各国防災担当行政官
「第 4 回防災・社会貢献ディベート大会」後援	13 年 2/16	防災・社会貢献ディベート大会実行委員会 (神戸学院大学、ポートアイランド 4 大学連携推進センター、兵庫県、県立舞子高校、神戸学院大学附属高校ほか)

## ■ 神戸学院大学での講義

神戸学院大学 学際教育機構から、後期講義の「社会貢献論Ⅱ」の一コマとして講演依頼があり、次のとおり講演を行った。

なお、本講義は、遠隔授業システムを活用して東北学院大学にも配信された。

### <概要>

- 日 時 平成 24 年 11 月 29 日 (木) 12:40~14:10
- 場 所 神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス
- 講演テーマ 国際防災研修センターの活動 ~JICA と兵庫県から~
- 参加者 約 50 名

本講義では、①兵庫県・神戸市と JICA の歴史、②JICA、③DRLC、④関西広域連合等について説明を行った。

今回、公務員志望の学生が多く参加していたこともあり、講義実施後のアンケートでは、東日本大震災に対する関西広域連合の支援や、兵庫県の有する阪神・淡路大震災の経験と教訓を世界に発信するため、世界に広くネットワークを有する JICA との連携 (DRLC) に高い関心が寄せられていた。

また、発生が確実視されている東海・東南海・南海地震に備えるため、自分たちに何が出来るのか、何をすべきなのかについて真剣に考えていきたいという前向きな意見も出され、非常に有意義なものとなった。

なお、本講義の担当教授である神戸学院大学 浅野 壽夫氏から、今後も本講義の実施について協力依頼があり、人材育成、広報の観点から引き続き実施していく。

## ② 新たな研修教材の開発と既存研修教材の活用

### ■多言語災害時音声素材「DMAM (Disaster Management Audio Materials for Community Radio Broadcasting)」及びそのハンドブックである

#### 「DMAM Handbook ( Handbook for the utilization of DMAM for Community Based Disaster Management)」の活用

- 2007 年度に世界コミュニティラジオ放送連盟 (AMARC) 日本協議会 (事務局：神戸市長田区コミュニティラジオ局「FM わいわい」と共同で開発した研修教材、多言語災害情報音声素材集「DMAM (Disaster Management Audio Materials for Community

Radio Broadcasting)』と、DMAM をベースに、地域コミュニティの防災活動に具体的に活用する手法を紹介するための製作したハンドブック「Handbook for the utilization of DMAM for Community Based Disaster Management」を、JICA 関西で受入れる研修の際に使用したほか、トルコ、大韓民国、ミャンマー、モンゴルなどの政府機関や現地活動団体に寄贈するなど、広く活用した。

■ **【新】「災害に強いコミュニティ作りに向けたボランティア・マネジメント」テキスト・ワークシート集（日英併記版）の開発**

2010 年度から実施された「災害に強いコミュニティ作りに向けたボランティア・マネジメント」研修コースのなかで、行政と民間の連携を具体的に学ぶ必要性が挙げられたことから、具体的にどのような方法でコミュニティやボランティアと連携をしていくのかを学べるシミュレーション体験教材を 2011 年度に研修委託先である非営利活動法人市民活動センター神戸と共に製作したが、同研修については 2012 年度で終了となったことから、他の防災分野研修でも活用できるよう、災害直後の設立が想定されるボランティアセンターの運営から、市町村行政担当者の立場としてのボランティアとの連携構築方法、災害応急時の対応などを学ぶ内容での新たな汎用テキストを開発した。

■ **【新】地域の支え合い防災マップ作成マニュアル 英語版の開発**

■ **【新】地域の支え合い防災マップ作成マニュアル スペイン語版の開発**

■ **【新】地域の支え合い防災マップ作成マニュアル ベトナム語版の開発**

➤ 災害の発生と拡大を防止するには、自分たちの住んでいる地域が災害に対してどのような弱点があるのかを日頃から具体的に把握しておくことが大切であることから、昨年度に地域住民自らが地域の「防災マップ」を作成するための「地域の支え合い防災マップ作成マニュアル（日本語版）」を、国際防災研修センターのオリジナル教材として開発したが、継続的に多言語化して活用を図ることが重要であることから、2年目の今年度については、新たに英語版、スペイン語版、ベトナム語版を開発した。





■ **【新】“BOKOMI” movie DVD（英語版・日本語版）の開発**

➤ 防災分野の研修の中では、コミュニティが主体的に実施するBOKOMI活動を視察する機会があるが、研修員からは「帰国後に講義資料のみで地域防災組織の必要性や活動を伝えるのは限界がある」という意見が多く聞かれることから、毛布担架や水消火器、バケツリレーなど、すぐに導入が可能な防災福祉コミュニティ活動(BOKOMI活動)の方法を映像を使って解説した教材を作成した。

本教材は、「コミュニティ防災」研修を中心としたJICA防災分野研修で活用すると共に、青年海外協力隊員(防災分野隊員)や帰国研修員にも共有することで知識の共有に役立てていく。



■ **参加型学習教材「被災地復興シミュレーション 納得するまちづくり」の活用**

➤ 2008年度に神戸学院大学防災・社会貢献ユニットと共同開発したロールプレイ手法を用いた体験型学習教材「被災地復興シミュレーション 納得するまちづくり」の活用の一環として、2008、2009、2010、2011年度に引き続き「自然災害からの事前復興計画」コースの研修員に対しワークショップを実施した。

③ **国内防災リソースの調査実施**

➤ 阪神・淡路大震災関連の研修リソースのみならず、兵庫での防災研修リソースを補完する東日本大震災リソースや、今後の発生が予測される南海トラフ大地震などを含む、国内防災リソースの調査を以下のとおり実施した。

内容	時期
防災分野研修等での東日本大震災の被災地（宮城県沿岸部）視察の可能性調査、被災地域情報収集調査	12年 7/2-7/4
防災分野研修等での東日本大震災の被災地（岩手県及び宮城県沿岸部）視察の可能性調査、被災地域情報収集調査	12年 10/29-11/2
東日本大震災の被災地（岩手県）視察の現況での可能性調査、岩手県庁との調整	13年 3/14-3/15
南海地震の備えにかかる高知県リソースの開拓事前調査	13年3/22

#### ④ 防災分野研修共通プログラムの実施

- 防災分野の全研修コース（集団・地域別研修）を対象に、兵庫で防災を学ぶ視点から阪神・淡路大震災とこれをベースとした兵庫県・神戸市の防災を学ぶ「共通プログラム」を、以下のとおり各研修カリキュラムの冒頭に組み入れて開設（2日間、講義2、視察1）した。

##### <共通プログラム内容>

	講義・内容	単位（日）	講師
講座1	防災行政の組織体制・制度としくみ	0.5	兵庫県防災企画局／(財)神戸都市問題研究所
講座2	防災教育	0.5	兵庫県教育委員会／神戸市教育委員会
講座3	人と防災未来センター視察	0.5	人と防災未来センター

#### (3) 防災分野研修修了者及び所属組織並びに日本側リソースとのネットワーク構築促進

##### ① 帰国研修員の現地活動支援及びネットワーク形成の促進

###### ■課題別研修「自然災害からの事前復興計画」帰国研修員支援事業の実施

- JICA 課題別研修「自然災害からの事前復興計画」コースの既修了研修員を集めたフォローアップ事業を実施した。トルコ国、パキスタン国からの帰国研修員を対象とし、日本からは本研修コースリーダーと主要講師の2名と共に国際防災研修センターから職員を派遣した。
- ワークショップでは日本での研修がいかに帰国後の業務に活かされているのか、また活かされなかった場合は何が原因か、また今後の研修講義を考える上でどのような要素が必要であるかを、ディスカッションを行った。
- セミナーでは、それぞれの地域で展開してきた復興計画にかかるアクションプランの成果等を報告したほか、トルコ国防災関係機関代表者も参加し、活発な情報共有が行われた。また、今回のフォローアップを開催するにあたって、トルコ国側からの要求により、東日本大震災の復興に深く関わる2名の講師から現状や課題等が共有され、参加者にとって、貴重な学習の機会となった。また参加した防災関係者間での情報共有が図られるなどネットワークの構築に寄与する機会となった。
- トルコ国首相府緊急事態管理庁（AFAD）・復興部門局長への表敬訪問では、多数の帰国研修員が同庁から参加している事からも、双方での震災復興への知見を共有していきたい旨が伝えられた。

実施期間：2012年11月26日（月）から29日（木）

場所：トルコ共和国・アンカラ市      ワークショップ参加者：約30名

「自然災害からの事前復興計画」コースの既修了研修員のうちトルコ国から6名・パキスタン国から1名、「都市地震災害軽減のための総合戦略」コースの既修了研修員のうちトルコ国から2名、トルコ国首相府緊急事態管理庁（AFAD）、トルコ国 Atılım 大学、トルコ国防災関連企業関係者、土日基金文化センター、神戸都市問題研究所、同志社大学、JICA トルコ事務所、国際防災研修センター（DRLC）



研修での学びを振り返り、業務に反映させる  
為のワークショップを実施



現地防災関係者も招いたセミナーでは東日本  
大震災からの復興について講師陣から発表



帰国研修員・防災機関関係者などセミナー参  
加者との記念撮影



トルコ国首相府緊急事態管理庁（AFAD）  
への表敬訪問

### ■JICA/KOICA 共同セミナー・帰国研修員フォローアップの実施

日本の国際協力機構（JICA）と韓国の国際協力事業団（KOICA）による共同セミナー及び帰国研修員のフォローアップがミャンマーで実施され、国際防災研修センター/DRLC から職員を派遣した。

JICA で実施された「災害医療」及び「総合防災行政」研修に参加した帰国研修員から、それぞれの取り組みの成果等が報告され、参加者間で情報の共有が図られるなど、ネットワークの構築に貴重な機会となった。

総合防災行政研修に参加した帰国研修員からは、アクションプランの進捗状況について、「防災訓練センター設立」に関するプロジェクトが本格的に進行しており、3年以内に開設されるとの発表があった。

同時に、防災教育に携わる講師派遣についての強い要望があり、今回、プラス・アーツの永田氏が講演した防災教育イベント「イザ！カエルキャラバン」に対しては、政府高官を始め多くの参加者が非常に高い関心を示していたことから、今後、小学生を対象とした防災教育イベントの実施を本格的に検討していく。

- <概要> ○ 実施期間：平成25年3月6日（水）から平成25年3月7日（木）  
○ 場 所：ミャンマー・ネピドー ○ セミナー参加者：約60名  
DRLC/JICA からは、ミャンマーの防災・減災能力の向上を図るため、次のとおり講義等を実施した。

<講義内容>

- ・ 関西広域連合による防災対策
- ・ イザ！カエルキャラバン
- ・ BOKOMI と防災教育
- ・ 東日本大震災から学んだ教訓
- ・ 災害リスクの軽減に向けた防災意識の向上

関西広域連合による防災対策では、東日本大震災に対する支援例に基づき、大規模広域災害発生時の地方自治体間の連携の重要性について説明を行った。

イザ！カエルキャラバンでは、ビニール袋を使い骨折した腕の固定法等の講義の他、新聞紙を活用した紙コップ・食器の作成を参加者全員に体験してもらった。

BOKOMI と防災教育では、阪神・淡路大震災の際、救助された人の大部分は、地域住民によるものであったことから、地域防災コミュニティの重要性及びその普及啓発活動について説明を行った。

東日本大震災から学んだ教訓では、気象庁が作成したDVDに基づき、“釜石の奇跡”を例に、防災教育の重要性について説明を行った。

災害リスクの軽減に向けた意識の向上では、地域住民の防災に対する意識を向上させることが防災・減災に非常に重要であることを説明した。

また、今回のセミナーには、帰国研修員のみならず、ミャンマー気象局局長など政府高官等の参加もあり、幅広い観点から非常に有意義な意見交換等を実施することができた。



防災訓練センター設立について発表を行っている帰国研修員



ミャンマー国営放送のインタビューを受ける JICA/KOICA の担当者



紙コップの作り方を実演する「プラス・アーツ 永田氏」



関西広域連合の防災対策について講義を行っている様子

## ② DRLC ウェブサイトの運営

- 帰国研修員に対しメールマガジン配信を行うほか、DRLC ウェブサイトの記事を紹介する等により、ウェブサイトの有効活用に努めた。

公開サイトでは「Handbook for the utilization of DMAM for Community Based Disaster Management」等の研修教材を掲載し、研修員のみならず全ての訪問者が利用できる阪神・淡路大震災関連資料等を充実させるとともに、研修員限定のサイトでは、共通プログラムの講義資料、直営実施プログラムの講義資料、研修員の視察先での活動などを掲載し、帰国後のウェブサイトの活用を促している。

□ ウェブサイト・アドレス：<http://www.drlc.jp>

□ 公開サイトで利用可能な阪神・淡路大震災関連資料等

ひょうごの防災－災害文化が支える減災社会の実現－ (日本語、英語、スペイン語、中国語、ロシア語)
兵庫県災害対策センターパンフレット (英語)
フェニックス防災システムパンフレット (英語)
阪神・淡路大震災教訓集 (日本語、英語、スペイン語、ロシア語)
BOKOMI Guidebook (英語)
災害情報音声素材集 (英語)
「DMAM (Disaster Management Audio Materials for Community Radio Broadcasting)」
Handbook for the utilization of DMAM for Community Based Disaster Management (英語)



## ③ 【新】DRLC「facebook」ページの開設

- 従来から運営してきたDRLCのWebサイトに加え、世界的に利用者が急増するなど、今もっとも社会的関心が高いコミュニケーションツールである「facebook」ページを新たに開設し、よりリアルタイムでの情報発信を開始した。



#### (4) 防災分野の国内リソースに係るデータベース整備の促進

##### ① 帰国研修員データベースの整備・活用

- 今年度の課題別・国別研修員 320 人をデータベースに登録し、登録者は計 1,669 人となった。これまでに整備したデータベースは、帰国研修員支援事業における帰国研修員選定等で活用した。

##### ② 研修リソースデータベースの整備・改良

- 2009 年度に整備したリソースデータベースについては、より利便性の高いデータベースとして確立していくために、汎用性の高いフォーマットでの整理が有効と考えられたことから、2013 年度からは、新たなフォーマット（エクセル形式）への移行を行った。

#### (5) 兵庫県の防災知見の国際防災人材開発への活用促進

##### ① 技術協力プロジェクト等において、兵庫県内に蓄積している経験と事例等を紹介

###### ■ 四川大地震支援事業への協力・支援

###### ・「こころのケア人材育成プロジェクト」の実施支援

- 四川地震復興支援に関して JICA が 2009 年 6 月から 5 カ年計画で実施する「こころのケア人材育成プロジェクト」の具体活動に際して兵庫の防災リソースの調整等により実施支援を行なった。

###### ■ JICA/KOICA 共同セミナー・帰国研修員フォローアップの実施に向けた協議等

2012 年 11 月に実施された第 2 回 JICA-KOICA 年次定例協議により、日本の国際協力機構（JICA）と韓国の国際協力事業団（KOICA）による防災分野の共同研修の実施について合意され、2013 年から 2015 年の 3 ケ年実施されることになっている。

共同研修の本格実施に向け、お互いの認識を一にするため様々な協議を行ってきたが、JICA/KOICA が実施する防災分野研修のアクションプラン発表会及び評価会に、それぞれの職員が次のとおり参加し、今年度、試行的に開催する共同セミナー・帰国研修員のフォローアップの実施等に向け意見交換及び実務的な協議等が行われることから、JICA/国際防災研修センターからも職員を派遣した。

###### <JICA/国際防災研修センター職員の KOICA への訪問>

平成 24 年 10 月 28 日（日）～10 月 30 日（火）

###### <KOICA 職員の JICA への訪問>

平成 25 年 2 月 5 日（火）～2 月 8 日（金）



KOICA の研修員によるアクションプラン発表の様子



アクションプラン発表に参加させていただいたことに対し謝辞を述べる JICA 本部 岩上次長

協議の際、情報提供として JICA 関西で実施している防災分野研修で大きな成果を上げている国際防災研修センター/DRLC の取り組みを紹介した。

- ・ 阪神・淡路大震災の経験と教訓を世界に広めるとともに、JICA の実施する防災研修の質を高めるため兵庫県と JICA が共同設置
- ・ 兵庫県からの職員派遣
- ・ 日本の防災行政に対する理解を深めるための共通プログラムの実施  
(JICA 関西が実施するほぼ全ての防災分野研修で実施)
- ・ 独自教材の作成・普及 等

KOICA 側には、地方公共団体と連携したこのような取り組みがないことから、今後、KOICA が実施する研修の充実・拡充に向け貴重な情報提供となった。

また、今年度、試行的にミャンマーで実施する共同セミナーにおいて、ミャンマーの防災・減災能力の向上を図るため、JICA/KOICA それぞれが人選した講師による講義の実施と日韓両の帰国研修員のフォローアップを実施することとなった。

これを踏まえ、JICA 側からは、東日本大震災の支援で大きな役割を果たした関西広域連合による防災対策、阪神・淡路大震災でその重要性を再認識した地域防災コミュニティや防災教育等に関する講義を行うこと等を決定した。

## ②DRLC の広報活動

### ■ DRLC パンフレット（日本語版・英語版）の改訂・増刷

- DRLC の活動を広く広報するため、2007 年度に初版を作成し、防災分野関係者に広く配布している国際防災研修センターパンフレットの改訂し増刷した。

### ■ **【新】** DRLC ノベルティグッズの製作

- DRLC の活動を JICA 防災分野研修員のみならず、広く世界中の防災分野関係機関に広報するため、実用的な配布用ノベルティグッズとして、DRLC のイメージキャラクターとウェブサイトアドレスが印字されたエマージェンシーホイッスル及びネームカードホルダー付のネックストラップを製作し、各国からの研修員への PR を開始した。